

P o l j e

〔ポリエ〕とは、石灰岩地域で溶食作用によってできた広い凹地、平野のことです。
秋吉台エコ・ミュージアムは佐山ポリエと呼ばれる谷あいには建っています。

〒754-0302 山口県美祢市美東町赤
TEL・FAX: 08396-2-2622
E-mail : akiyosiecomuseum@yahoo.co.jp
HP : <http://www.c-able.ne.jp/~mitou-14/>

秋吉台 草を食べるなら **クズ** をお腹いっぱい召し上がれ

9月になって雨が降ったり止んだりの日が続き、少しは潤ったかに見えた秋吉台ですが、濃い緑の草原も幾分気味を帯びてきました。そんな猛暑の中でひととき生育旺盛なのがクズ。花は紅紫色で芳香があるマメ科のつる性多年草です。これがはびこってカルストロード沿いのフェンスにからまり緑の壁状態です。車で通っても折角の景色が見えにくくて残念です。また他の植物にも覆いかぶさるものだから、その下になっている植物は迷惑していることでしょう。多年草はまた来年があるかもしれませんが、1年草や2年草は今年のうちに花を咲かせてタネを落とさなければ、来年以降の花は期待できないのではないかと心配です。シカによる食害も困ったものですが、クズもそうです。そこで一つシカにお勧め。草を食べるならクズをお腹いっぱい召し上がれ。



季節の花 根が無いのに大繁殖

シラヤマギク 草原で多く見られるキク科の多年草。花は直径2cmほどで、白い舌状花はきれいにそろって咲くことはあまりありません。根元の葉にできる虫こぶは緑色の小さなバラのようです。草丈が高いため草原では良く目立ち、秋を代表する花でもあります、上手く撮れません。

ガガイモ 草原や林縁などに生えるキョウチクトウ科のツル性多年草。ツルを他の植物にからませたり、地面を這うようにしたりして花を咲かせます。花は1cmほどの大きさに淡紫色、全体に密毛があり造花のようにも見えます。たくさんの花が咲きますが、結実は稀です。

ネナシカズラ 日当たりの良い草原に生えるヒルガオ科の1年性寄生植物。発芽して成長すると他の植物にからみ付きます。そうすると根は枯れてしまい、養分はその寄生主に新たな根を差し込んで吸い取ります。小さな花がこれでもかというくらいたくさんまとまって咲きます。



オオセイボウ

青い宝石バチ 大青蜂

今年もオオセイボウがやって来る頃だと思つてオミナエシを見ていると、幸せを運ぶ青いハチ、ブルービー(ルリモンハナバチ)が来ていました。花から花へと一生懸命に飛びまわっています。可愛いです。しばらくするとどこかへ飛んで行きました。入れ違いに今度はオオセイボウが飛んで来ました。青く光るので忙しく飛びまわっていても見つけられます。他のハチと違ってじっとしないのは、目立つ色なので天敵に捕まらないためでしょうか。大青蜂の名前のとおりキラキラと輝く青い金属のような光沢に見えます。この青いハチを撮ろうとカメラを携えた人たちが3人4人、連日訪れています。



キジョラン

初めて見る意外と大きい果実

キジョランの果実を見つけたとのことで、早速出かけました。キジョランは旅をする蝶アサギマダラの幼虫の食草でもあります。幼虫はこの葉を食べて成長してサナギとなります。キジョランはここで数年見て来ましたが、果実を見るのは初めて。しかもこんなに大きいとは思っていませんでした。近くには黒い塊のようなものが下がっています。たぶん前年の果実の殻だと思います。ということは、今までも果実はできていたけど見つけられなかったということです。秋が深まり、殻が割れて中からたくさんの白い妖精が風に吹かれて飛び出すところ、見たいです。



ヒルガオ

アサガオのような 夕ネ?

ヒルガオを鉢植えにして育ててみました。アサガオの花は午前中でしぼんでしましますが、ヒルガオは午後になっても咲き続けます。だったらヒルガオの鉢植えのほうが良いのではと思った次第。で、育てて感じたこと。ツルは3m近く伸びますが、灌水など管理の影響なのか下の葉がだんだんと枯れてしまい見かけが良くありませんでした。花はツル1m以上伸びた辺りから咲き始め、先端まで咲きます。ただし、アサガオと違って花を咲かせる期間が短く、9月半ば頃には咲き終わってしまいました。なるほど、これではグリーンカーテンには不向きかもしれません。



10月の行事

10月10日(土) 「クロヤツシロランの散策」

どこかにあるはず、まぼろしの花「クロヤツシロラン」を探しに出かけませんか。

10月24日(土) 「花の観察 秋の花」

秋吉台を散策しながら秋の花を観察しましょう。

